

# 北海道芸術文化

No.70



▲地元恵庭から出演の3グループによる彩り豊かな舞台(第65回北海道文化集会in恵庭 アートステージより)  
(左)北海道歴史舞台 チーム絆花 (右上)恵庭民謡連合会 (右下)箏 斉藤真佐子&瀧本志保

## 文化の未来に向けて

北海道文化団体協議会

会長 下沢敏也



北海道も春を感じさせる陽気になってきました。ようやく日常が戻ってきた中で、社会全体の文化事業が活発になり、我々北海道文団協も様々な活動を展開しております。

コロナ後初めて北海道文化集會を恵庭市にて開催し、多くのご来賓、ご来場者を迎え文化フォーラムや演奏、地元の子供達によるダンスなど楽しい内容となりました。此処のところ各管内からの文化集會への問い合わせも増え関心も高まっている様に感じています。

国際交流事業も復活し、さる8月には北海道と友好提携を結ぶ黒龍江省ハルビン市を訪問、省の芸術文化を代表する音楽や舞台、美術の関係団体と対面協議ができました。今後の相互交流に繋がって行くことでしょう。

また、東北・北海道芸術文化団体協議会創立50周年記念シンポジウムが仙台市で開催され、東北六県の代表のみなさんとともに意見交換の場を得ることが出来、有意義な時間となりました。さらに令和6、7年の2年間は北海道が当事業事務局を担当し、東北のみなさんを迎えるとともに、交流事業では「こどもオール・ブリュット北海道みらい作品展」の一環として「web展覧会」を展開して参ります。こどもオール・ブリュットの展覧会は昨年5回目となり各方面からも期待される展覧会に成長しており皆様に感謝いたします。

これからの北海道の文化事業を団体としてどの様に発展させ、道民活動の支援をして行くことができるのか、疲弊した4年間をどの様に取り戻し活性化していけるのか課題は山積ですが、北海道文団協のみなさんとともに推し進めて参ります。

# 北海道文化団体協議会各賞が決定

「北海道における芸術文化の高揚に尽くされ、業績を上げた個人または団体」を対象に顕彰する北海道文化団体協議会賞が決定し、11月19日(日)北海道文化集会 開会式内で授賞式が執り行われました。

令和5年度は、芸術賞1個人、道文団協賞2個人、道文団協奨励賞2団体に贈られました。



## 第30回芸術賞



**田湯 岬**

個人/俳句

札幌市

昭和52年「道俳句会」に入会。月間俳句雑誌「道」の主筆を務める。平成22年から27年まで札幌および北海道文化団体協議会の事務局次長、現在は常任理事として札幌・北海道の芸術文化の振興に大きく貢献。

## 受賞者から喜びの声

第30回北海道文化団体協議会芸術賞を頂き、身に余る光栄と心より感謝申し上げます。私の俳句は、70年安保が終り目標を失っていたときに、働く者の俳句、会社員には会社員の俳句がある事を知り、俳句の門をくぐったことに始まります。

団塊の世代の運命で「サラリーマンは気楽な稼業」ではなく、とても厳しい競争の世界でしたが、心身共に健康で来られたのは俳句があったからだと思います。

年齢が上がるにつれ、北海道俳句協会や文化団体協議会で、お手伝いをする事が多くなり、そこで他分野の芸術・文化の先生方から、多くのことを学ばせて頂きました。

今回の受賞はそのことが認められたのだろうと思ひ感謝するばかりです。これからも俳句はもとより、文団協を通して多くの分野の芸術・文化についての理解を深め、僅かでもご恩返しが出来たなら、と思っております。



## 第53回道文団協賞



### 中村 哲泰

個人／美術  
恵庭市

昭和48年、恵庭美術協会の設立に参加。絵画サークルや文化センターの講師を数多く務めるなど道内の美術作家育成に努める。平成27年には公募展「水会展」で最高賞の「水会賞」を受賞。北海道部文化の発展に大きく貢献。

今年が高齢な私にとりましてもっとも喜びに満ちた1年となりました。予想外の大きい賞を頂き厚く御礼申し上げます。  
北広島市大曲在住40年。7サークルに加入し、様々な役員を通して、私に活動の場を与えて下さいました。趣味の書道、詩吟、漢詩作り。すべて中国がそのルーツであり、亡き宗家と共に研修にも行ってきました。また、役員もすべて長期に亘り、継続することの大切さを経験しました。このような諸活動が評価され、今回の授賞につながったものと存じます。  
現在入居する施設でも私の趣味に関する入居者が少なく、ささやかですが、毛筆、漢詩作りを通して奉仕したいと考えております。今後ともご指導下さいますようお願いいたします。また道内各分野の芸術文化の総元締の組織として今後のご発展をお祈りしております。

## 受賞者から喜びの声

## 第53回道文団協賞



### 金田 孝次

個人／詩吟・書道・漢詩  
北広島市

日本詩吟学院岳風会、日本習字空知支部長会、道内唯一の漢詩研究会の会長を務める等、活動は多岐にわたる。指導面では、詩吟では道場長として、習字では講師として全道各地で普及活動に尽力。

## 第18回奨励賞



### 厚岸かぐら同好会

団体／伝統芸能 厚岸町  
代表 島山 竹士

昭和35年設立。昭和53年厚岸町指定の無形文化財「厚岸かぐら」への理解と後継者の育成のため、町内外において日々活動に取り組んでいる。



### 豊頃町文化協会

団体／文化活動 豊頃町  
代表 岩井 明

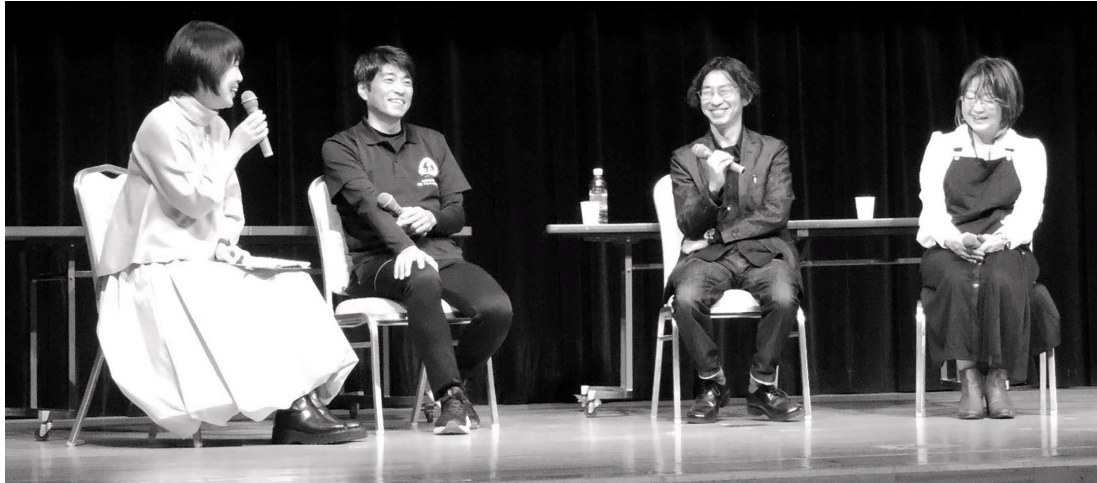
昭和44年設立。「道民芸術祭」など文化事業への積極的な取り組みをはじめ、町民への芸術鑑賞の場を提供するなど地域の芸術文化の振興にも大きく貢献。

65th

# 北海道文化集会 in 恵庭

～人と人、地域をつなぐ文化の輪～

令和5年11月19日(日)恵庭市民会館を会場に「第65回北海道文化集会in恵庭」を開催しました。文化フォーラムやアートステージなど、文化を考える・触れる一日となりました。当日の様子をご紹介します。



▲「札幌人図鑑」主宰の福津京子氏をコーディネーターに迎え、文化フォーラム「恵庭人図鑑」を開催。  
左より、福津氏、山口氏(絆花代表)、竹内氏(エコフェス主宰)、大塚氏



▲(一財)縄文芸術文化財団による迫力に満ちた演奏

## 恵庭市文化協会事務局長

大塚 芳葉

この度、石狩管内文化団体協議会・恵庭市文化協会50周年の記念誌の祝辞文を北海道文化団体協議会さんへお願いしていたところ、「恵庭市で北海道文化集会を開催しませんか」とお話を頂き、恵庭で開催することが実現しました。とはいえ、何もわからない手探り状態で段取りには道文団さんにとってもお世話になりました。表彰式の後、福津京子さんとの「人図鑑」、アートステージと文化・芸術をメインに進行していきました。恵庭市文化協会の会員さんと子供たちのステージ、かつこよかった縄文太鼓の演奏と無事終える事が出来ました。福津京子さんの進行でパネリストとして参加

させていただきましたが、元々人前で話すのが一番苦手な私ですので緊張がよく覚えていないのが正直なところ。他のお二人は人前で慣れていらっしゃるので話もスムーズ。何度お隣に座っていた竹内さんに助けられたことか。

芸術・文化と言うと敷居が高いように見られがちですが、文化は生活の中に根付いているものだ、そしてそれが芸術に進化していくものではないかなと思いつつ、自分は自分の好きなことをしているだけの毎日です。私の場合は、「古典書道」「アート書道」ですが、文化協会に所属することで、管内の他市町村の方々とのつながりもできて視野が広がった様に思います。特に舞台関係は展示と全然違う準備のため戸惑うことも沢山ありました。いろいろな方のお話が聞ける機会が増えた事は、今後の自分にとって良い環境が作れたと思っています。

北海道文化集会を通じて、地域文化のつながりが広くなり交流が生まれ誰でも文化に関わっていると感じてもらいたいと思います。そして恵庭で開催できたことに感謝いたします。

末筆ではございますが皆様の益々のご活動をお祈りいたします。



# 東北・北海道芸術文化団体協議会

## 創立50周年記念シンポジウム

本年創立50周年を迎えた、東北・北海道7道県の県域文化団体で構成する東北・北海道芸術文化団体協議会。7月14日(金)に仙台国際センターにおいて、(公社)宮城県芸術協会が幹事となり総会並びに記念シンポジウム「時代はアートだー芸術が拓く、私たちの(社会)未来図」が盛大に開催されました。

第1部の基調講演は、講師に独立研究者・著作家・パブリックスピーカーとして活躍している山口周氏を迎え「美意識が広げる社会彫刻の可能性」の演題で、世界のエリートはなぜ美意識を鍛えるのか等の問題を提起。これからの芸術文化の可能性が語られました。

第2部は、3名の講師によるトークセッション①「芸術文化と健康・心の復興」②「芸術文化と企業経営」③「芸術文化と地域づくり」の3つの側面から、芸術文化の価値や役割を掘り下げました。

第3部「出演者×東北・北海道芸術文化団体協議会とのパネル討論」では、本道協議会の下沢会長も登壇し、

団体の現状と課題を紹介。劇作家・公立芸術文化観光専門職大学学長の平田オリザ氏からの祝意と共感メッセージ、芸文協「シンポジウム宣言」で締めくくり、後援の共同通信社を通じて全国のメディアに配信されました。

コロナ禍を経て4年ぶりの対面開催でしたが、この後で開かれた交流会は各県との情報交換などの貴重な機会でもあり、50周年の記念に相応しい充実した内容となりました。

令和6・7年は北海道が幹事となり、札幌市での総会・交流会、交流事業や機関誌発行などを担当します。7道県の芸術文化交流が益々緊密なものとなり、道県民に成果還元ができるよう、企画を練って動き始めていくところです。



▲第3部パネル討論の様子

# 国際交流事業

## こどもアール・ブリュット

長年に亘り相互に招聘派遣を続けている北海道・中国黒龍江省の文化交流は、令和5年度に2つの進展がありました。

まず、当会主催「こどもアール・ブリュット北海道みらい作品展」へ牡丹江市の子供たちから10作品の友情展を含めいただき、8月～11月に移動展を含めて道内6カ所で展示しました。障がいのある無や国境の垣根も越えて、自由な輝き溢れる子供作品が道民の目に触れる機会が各地域へと広がったと手ごたえを感じています。

化旅遊庁、ハルビン音楽学院、黒龍江省国際版画博物館などを回り、各処の役員や芸術家たちとの熱意に満ちた直接会談が実現しました。

この3年の間、新型コロナウイルスが世界的に蔓延し、対面交流が叶わず動画交換や交流歴史の展示紹介などを続けてきましたが、今年は漸く明るい兆しが見えたと感じています。今後の国際文化交流に一層の弾みがつくよう、調整と働きかけに鋭意努力してまいります。

さらに、新千歳・北京間の航空便再開をうけ、今後の交流について黒龍江省側との協議のため、8月29日(火)～9月2日(土)に下沢会長はじめ事務局3名がハルビン市を訪問しました。



▲牡丹江市の子どもからの出展作品



▲文化旅游庁役員との会談



## 障がいがある子もない子も同じ場で自由に輝くアートの未来。

今年5回目を迎えた本展は、全道の小中学校・特別支援学校を含む全ての義務教育学校及び中等教育学校、特別支援学校の小学部・中学部の児童生徒の絵画・書道・工芸作品などを公募しています。コロナ禍にあっても年々申込者数は増え続け、今年は482点の出展をいただきました。

令和6年度は、8月15日(木)～17日(土)の3日間、今年度と同じSCARTS内の1階モールA・Bへ会場を移して、さらに多くの作品を展示できるよう準備を進めています。また、入賞作品(障が

令和5年8月18日(金)～20日(日)  
札幌文化芸術交流センターSCARTS 2階モールCにて開催

# 第5回 こどもアート・プロジェクト 北海道みらい作品展

いの有無で区分を設けず、学年ブロック計30点を予定)・中国黒龍江省からの友情出展(10点程度を予定)の「移動展」も引き続き開催地を募集します。この取り組みの輪が大きく広がっていくよう、全道の皆様のご協力をお願いいたします。

令和5年度移動展開催地

▽9月1日(金)～15日(金)  
まるひこアーツスペースなごみ和

(札幌市豊平区)

▽9月29日(金)～10月1日(日)  
紋別市民会館

▽10月12日(木)～15日(日)  
天塩町社会福祉会館

▽11月3日(金・祝)～7日(火)  
函館市芸術ホール

▽11月17日(金)～20日(月)  
恵庭市/花の拠点「はなふる」

センターハウス



# 全道シルバー作品展

第34回全道シルバー作品展には、絵画29点、書18点、写真25点、工芸17点、短詩型87点の合計176点の作品展がありました。全道各地で活動に励まれる皆さまの様子が伝わる作品展となりました。入賞者をご紹介します。

## 北海道知事賞紹介

会期 令和5年10月13日(金)～10月17日(火)  
会場 道民活動センター(かでの2.7)展示ホール



### ◀大坂 雅博 (絵画/江別市) 「神の列柱」

評/表現方法・構図・テーマがシンプルで作家の意図が良く伝わってくる作品です。無駄な筆致もなく、とても見やすい画面になっていると思います。



### 田澤 康史 (写真/奈井江町) ▶ 「月照の塘」

評/黄金色に輝く川面が美しく目に映りました。光が成せるシーンだと思いますが、その瞬間を見逃さなかった撮影者の力量を評価します。望遠レンズで、夕暮れでしょうからタンチョウ(?)の姿は詳細(ディテール)は描写されていませんが、かえて塊となった群れの存在が川面に溶け込んで効果的になりました。

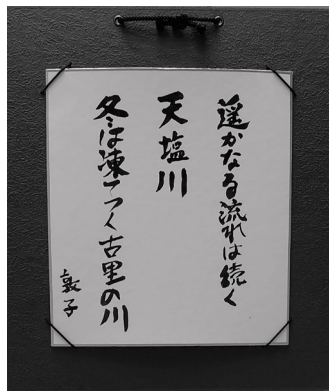


### ▲中島 雅昭 (工芸/美幌町) 「醍醐寺五重塔」

評/いつも出品いただいて、審査員が皆、注目している方です。今回の作品は、細部の細部まで手ワザで工夫され仕上げている素晴らしい五重塔です。最高賞の北海道知事賞、おめでとうございます。

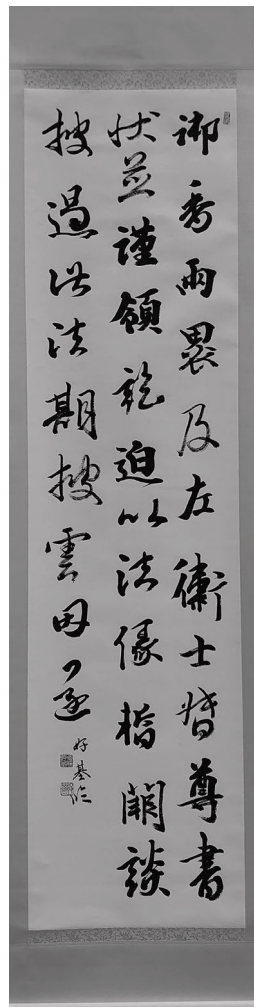
### 後藤 好基 (書/札幌市) ▶ 「臨書」

評/空海の「忽披帖」を正面から臨書し、緊張と気品のある作品に仕上げている。空間の明澄さ、含墨のリズムが美しい作をつくり上げている。



### ▲山部 敦子 (短歌/札幌市) 「遥かなる 流れは続く 天塩川 冬は凍てつく古里の川」

評/古里の川、天塩川を思う望郷の歌。流れの雄大さとあいまって冬は全てが凍てつく川。今は遥かに古里を離れて、望郷の念が募る。大がらかな歌ながら、ゆったりと調べも良くうたい秀逸である。



**北海道知事賞**  
大坂 雅博 71歳 (絵画)  
後藤 好基 78歳 (書)  
田澤 康史 76歳 (写真)  
中島 雅昭 72歳 (工芸)  
山部 敦子 69歳 (短歌)

**北海道社会福祉協議会会長賞**  
大槻 寿子 78歳 (絵画)  
高橋 春城 74歳 (書)  
佐野 ミヨ 76歳 (写真)  
沖 祐子 86歳 (工芸)  
齊藤 和加 76歳 (俳句)

**北海道文化団体協議会会長賞**  
中川 敏彦 69歳 (絵画)  
藤田 麗子 80歳 (書)  
梅田 信俊 74歳 (写真)  
堀口 雅行 76歳 (工芸)  
福栄 知舟 81歳 (川柳)

**札幌市長賞(特別賞)**  
番匠 甚五郎 81歳 (川柳)  
大越 和子 72歳 (絵画)  
かでの賞(最高齢者特別賞)  
上林 貞信 97歳 (川柳)  
東 隆子 94歳 (俳句)



令和5年度

# 道民芸術祭

道民芸術祭は、道内文化団体の技量向上と交流の促進、そして多くの道民に鑑賞の機会を提供することを目的としています。  
各地での活発な活動の様子をどうぞご覧ください。



上川管内文化団体連絡協議会



十勝文化団体協議会



石狩管内文化団体協議会



檜山管内文化団体連絡協議会



日高管内文化団体連絡協議会



胆振文化団体協議会



網走管内文化団体協議会



留萌地方文化団体連絡協議会



渡島地方文化団体連絡協議会



根室管内文化協会連絡協議会



後志管内文化団体連絡協議会



第47回道民芸術祭釧路地方短歌大会  
2023年10月29日（釧路市生涯学習センター8階）  
釧路地方文化団体連絡協議会



## 活動状況

### 活動の交流と連携

令和5年度の空文連の総会は4月22日に10市14町の会長、事務局長等が集まり岩見沢市において開催をする。

空文連の活動は基本的に各市町の文化活動にゆだねられているが、交流としての集まりは総会、道民芸術祭兼歴史のある空知管内郷土芸術祭、そして11月に実施される空知文化交流会がある。

令和5年度は道民芸術祭がコロナ禍で開催が見送られていた由仁町で2年ぶりに9月3日開催される。また文芸部門においては俳句、川柳、短歌が9月10日、滝川市において開催される。両部門においてもコロナ感染症の5類移行とあって久しぶりに盛り上がりのある内容となる。終了後の集録には管内の日頃の活動成果として記録される。

11月18日には空知文化交流会を深川市において開催する。道民芸術祭における開催地の企画、運営についての苦労や課題、また管内の文化活動における日頃の課題や

空知文化団体連絡協議会

会長 岡嘉彦

対策等について協議をする。今回はコロナ禍以来控えていた懇親会も実施され大変和やかな交流会であった。それぞれが地域において特色のある文化活動を進め、空文連の機関誌「文化空知」(52号)の発行を通して互いに交流そして刺激を受け合いながら活動の活性化を図っている。



### 国民文化祭に関して 札幌舞踊会 梅澤 由利子

第38回国民文化祭いしかわ洋舞フェスティバル2023に三味線の春日豊芝規先生と共に参加させていただきました。

和と洋のコラボレーションをテーマとした舞台で、会場は石川県立音楽堂邦楽ホールでした。プログラム1部オープニングでは能「神楽」とモダンの共演。2部は10都道府県から集った舞踊家、ダンサーが「和ヲツナグ」のテーマに沿って作品を発表しました。当方は春日先生の都々逸にのせて、クラシック・バレエをベースとしたコンテンポラリー作品をダンサー・郷翠がソロで踊りました。3部は特別合同作品。金沢の婚礼の風習をテーマとした総勢113名出演の大作です。

石川県金沢市は伝統文化が人々の暮らしに息づき、ただ守るだけでなく新しいアイデアを加えて継承、発展させているというとても魅力的な土地という印象です。

そして今回は邦楽堂という、いつもとは違う特別な空間で踊る事が出来たのは貴重な体験でした。



## 令和6年度 ほっかいどう 文団協事業予定

▽4月～3月

- ・令和6年度道民芸術祭（全道14管内各会場）

▽4月18日（木）

- ・北海道文団協「役員会」
- ・全道14管内会長会議（札幌市資料館 研修室）

▽5月9日（木）

- ・北海道文団協「総会」（札幌市資料館 研修室）

▽6月21日（金）

- ・東北・北海道芸術文化団体協議会「総会・交流会」

▽8月15日（木）～17日（土）

- ・こどもアール・ブリュット北海道みらい作品展  
（札幌文化芸術交流センターSCARTS 1階モールA・B）
- ・中国黒龍江省国際交流事業（こども作品友情出展）

▽9月

- ・第61回道北文化集会（上川管内 名寄市）

▽9月19日（木）～9月23日（月）

- ・全道シルバー作品展（かでの2.7）

▽10月19日（土）～22（火）

- ・第36回全国健康福祉祭とっとり大会  
ねんりんピックはばたけ鳥取2024美術展

▽10月14日（月・祝）～11月24日（日）

- ・第39回国民文化祭・ぎふ2024

▽日程未定

- ・第66回北海道文化集会（釧路市）

## YouTubeで公開中!



各イベントの様子を YouTube でご覧いただけます。  
チャンネル登録をお願いします!

□第65回北海道文化集会

- ・アートステージ
- ・文化フォーラム  
「街に元気を！文化を育てる“恵庭人図鑑”」

□マイ Town\*マイ Art プロジェクト

- （令和5年度応募作品の紹介）
- ・北海道詩人協会
- ・根室管内文化協会連絡協議会（羅臼町文化協会）
- ・釧路地方文化団体連絡協議会
- ・北海道民謡連盟

文団協の情報はこちらからもどうぞ



× X(旧 twitter)  
@hokkaido\_bundankyo



@instagram  
@hokkaido\_bundankyo



Facebook  
@facebook.com/doubundankyo



note  
@note.com/bundankyo

## 事務所移転のお知らせ

札幌市教育文化会館の改修工事に伴い「札幌コンサート  
ホールKitara」内に一時移転しております。

《移転期間》 令和6年9月2日まで

《移転先住所》

〒064-0931 札幌市中央区中島公園1番15号

（地下鉄中島公園駅から徒歩7分）

《TEL》011-211-8633

《FAX》011-211-8644

〇〇 あ と が き 〇〇

長い冬を越え、花の便りが待ち遠しい今日この頃です。

本号の制作にあたり、各地の皆様から情報をお寄せいただきありがとうございました。

全道を巡るのは時間も距離もすぐにとはまいりませんが、多くの機会を見  
つけ皆様の元で活動のご様子を体感したいと、今後の励みになりました。

令和6年度もどうぞよろしくお願いいたします。（K）

北海道芸術文化（道文団協広報）  
第 70 号

2024年3月25日発行

北海道文化団体協議会

〒064-0931 札幌市中央区中島公園1-15

札幌コンサートホール Kitara

電話 (011)211-8633 FAX (011)211-8644

E-mail: bundankyo@msj.biglobe.ne.jp

ホームページ: <http://doubun.wp.xdomain.jp/>